

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070300324
法人名	医療法人 医和基会
事業所名	グループホーム金刀比羅
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市戸畑区金比羅町4番29号 (電話) 093 - 873 - 8731

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年7月4日	評価確定日	平成20年8月11日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年2月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤	21人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 9階建ての2階～4階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)20,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(600,000円)	有りの場合 償却の有無	有(10年)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	6 名	要介護2		8 名	
要介護3	7 名	要介護4		5 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 88 歳	最低	80 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金刀比羅診療所
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人医和基会が開設する、グループホーム金刀比羅は同法人が運営する金刀比羅診療所が併設し、医療機関のバックアップのもと、健康面に配慮した安心の介護体制が確立されている。グループホームはケアハウスが併設され、隣接して生活支援ハウスも立地しており、利用者の状態変化に応じて住み慣れた地域で住み続けられる環境を提供している。グループホーム金刀比羅は、ホームの中から金比羅池の眺望を楽しむことができ、自然に囲まれた豊かな環境を有しており、入居者は日常的に金比羅池の周辺を散歩するなど、ホームの庭のような存在として親しまれている。3ユニットからなるグループホームは、各ユニットが2～4階で構成され、各ユニットごとに家庭的な環境面に独自の工夫を重ねている。今後は、更に地域で住み続けられる福祉総合拠点としての役割を高めていくことを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の指摘を受けた改善項目に積極的に取り組んでおり、日々のケアの充実を図るために、業務日誌・ケアプランに関して、様式を2、3回変更するなどケア目標を意識した取り組みができるように改善している。また、職員の能力や意欲によって研修受講ができるように研修の充実を図っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者・職員で指摘を受けた改善項目に積極的に取り組んでいる。日々のケアの充実を図るために、業務日誌・ケアプランに関して、様式を2、3回変更するなどケア目標を意識した取り組みができるように改善している。また、職員の能力や意欲によって研修受講ができるように研修の充実を図っている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	今年度は、運営推進会議の定期的な開催を目標とし、自治会長・民生委員・地域の方々・家族の参加により開催している。家族は輪番制で3家族ずつ参加しており、その都度、参加者の意見や意向を汲み取り、運営面やケアの充実につなげるように努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議で出された家族からの意見や要望は、その都度、早め早めに対応し、受診につなげるなど、早急な対応を行っている。また、各ユニットごとに意見箱を設置しており、意見や意向を把握できるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しており、地元商店街の「福祉まつり」などに参加している。一枝市民センターの文化祭に作品を出展するなど地域との関係づくりを図っている。北九州市社会福祉協議会が主催する青少年(中学生・高校生)のボランティア体験を受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あんしん・ふれあい・ゆとり」を運営理念に掲げ、住み慣れた地域でいつまでも暮らし続けることができるように支援している。今後は更に地域密着型サービスの役割として、例えば昔からの友人・知人などが訪ねて来たり、なじみの店を訪れたり、これまでの入居者の暮らしの継続を高め、理念を掘り下げていくことが期待される。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	今年度は、運営理念の更なる実践に向けて、全職員で日々の取り組みの目標を「向上心」と決め、職員の名札に明記し取り組んでいる。各ユニットの見やすい位置に「向上心」を掲示し、日々意識して取り組めるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地元商店街の「福祉まつり」などに参加している。一枝市民センターの文化祭に作品を出展するなど地域との関係づくりを図っている。北九州市社会福祉協議会が主催する青少年(中学生・高校生)のボランティア体験を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の指摘を受けた改善項目に積極的に取り組んでおり、日々のケアの充実を図るために、業務日誌・ケアプランに関して、様式を2、3回変更するなどケア目標を意識した取り組みができるように改善している。また、職員の能力や意欲によって研修受講ができるように研修の充実を図っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、運営推進会議の定期的な開催を目標とし、自治会長・民生委員・地域の方々・家族の参加により開催している。家族は輪番制で3家族ずつ参加しており、その都度、参加者の意見や意向を汲み取り、運営面やケアの充実につなげるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	北九州市の介護保険課に困難事例などを相談し、情報交換を行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	定期的に権利擁護の勉強会を行い、全職員が権利擁護に関して必要な時に支援できるように取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	約2/3の家族が日常的に面会に来られ、その都度、入居者の状況を報告している。また、運営推進会議に輪番制で3家族ずつ参加していただくようにしており、その都度、報告を行っている。定期的に便りを送り、行事や活動報告を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出された家族からの意見や要望は、その都度、早め早めに対応し、受診につなげるなど、早急な対応を行っている。また、各ユニットごとに意見箱を設置しており、意見や意向を把握できるように努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどないが、毎月2～3回のユニット合同のレクリエーションの際には、入居者とのユニットの職員の交流を図り、顔なじみの関係が築けるようにしている。ユニット以外の職員との顔なじみの関係づくりにより異動など諸事情にも対応できるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。職員のレベルアップを図るために研修受講の支援と資格取得の手当など、自己実現のためのバックアップ体制がある。また、他施設の見学なども計画し、ケアやサービスの質の向上を図る取り組みを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	毎年、年間の研修計画が立てられ、その計画に高齢者虐待研修「身体拘束廃止セミナー」が生まれ、職員が参加し、参加した職員がリーダー役として他の職員に啓発できるように取り組んでいる。身体拘束ゼロ対策設置委員会があり、毎月1回定期的にヒヤリハット報告などを行い状況確認を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	毎年、認知症の実践研修・リーダー研修を受講できるように取り組んでいる。認知症の基礎研修では、医学や心理学などの研修も組み込まれている。バリテーションの研修も受講している実績があり、職員の研修を計画的に実施しており、職員の能力アップを図るために研修には積極的に取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	近郊の介護老人福祉施設の新人・新任職員の研修を受け入れ、見学とオリエンテーションの協力をしている。職員研修の一環として3つのグループホームを見学し、見学後の発表を行うなど、同業者間の関係づくりに努めている。来月には他のグループホームの見学を10名受け入れる計画もある。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	同法人のデイサービスやショートサービスの利用により、徐々に慣れていただき、なじみの関係の中で、徐々に入居への準備を整えるなど段階的に進め、入居者や家族が安心して入居できるように支援している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の残存能力を活かすために、食事の盛り付け・片付け・モップ拭きなどできることを毎日の暮らしの中で行っていたくようにしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を導入し、取り組んでいる段階である。入居者の思いや意向を更に把握するために職員が日々の気づきをメモに取り、総合的に検証していくなど、センター方式をもう一步踏み込んで活用していくことが求められる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者の日中や夜間の様子・受診状況・ケア状況・活動状況などケース記録がわかりやすく簡素化されており工夫がある。身体的介護は一覧でわかりやすいものとなっている。これらの情報をもとにケアプランが立てられ、ケアの手順書を6月から少しずつ作成することを目標にしている。その方に合った声かけの方法など、生活歴などの情報をもとに手順方法を示すことを徐々に進めている段階である。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	ケアプランを担当者会議で議論し、基本的に3ヶ月ごとに見直しを行っている。急な状態変化の際には、その都度見直しを行っている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	同法人で多様なサービスを展開しており、なじみの場所での住み替えなど、入居者の意向や状態にそった適切なサービスを選択できるバックアップ体制がある。また、同法人で行う行事が多く、入居者が参加し交流やふれあいを楽しむ機会がある。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	同法人が運営する診療所が近接しており、家族や入居者にとって大きな安心となっている。入居者が希望するかかりつけ医の受診は支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	同法人の母体である牧山中央病院がターミナルの際は協力があり、家族や入居者の状態により、グループホームでは可能な限り対応している状況である。医療法人であるため、ターミナルは法人としてサポートすることになっている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	プライバシー保護はマニュアルがあり、個人情報の守秘義務の徹底・書類の保管・管理など指導を行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	6つのクラブ活動(買い物クラブ・散歩クラブ・カラオケクラブ・園芸クラブ・料理クラブ・手芸クラブ)があり、入居者それぞれの趣味や特技が活かせるように支援している。日々の暮らしは入居者の状態によってペースを尊重し支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事の重要性を認識し、職員会議で食事について「噛める物までキザミ食にしているか、雑に盛り付けていないか、自分が出されて食べる気になるか」などテーマとして取り上げ、食事を美味しく楽しんでいただけるように取り組んでいる。法人で食事は調理されるため、入居者のおやつ作りの回数を増やすなど検討してほしい。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴は週2回を基本に支援している。希望があれば夕方でも入浴できる。入浴に関して家族が状況を把握していない方がおられるため、家族への情報提供が求められる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	年1度の誕生会では、入居者の好きなメニューやお菓子などを準備しお祝いしている。年間行事で季節を感じていただくために6月は菖蒲見物・8月は地域の盆踊り・9月は敬老会・10月はバスハイク・12月はクリスマス会など楽しんでいただくように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	買い物は必要に応じて、近郊のミニスーパーに出かけ、自分で支払いができる方には支払っていただいている。ホーム前は豊かな自然を誇る金比羅池のため、天候が良い日は日課として散歩に出かけている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	グループホームが建物の2～4階のため、家族の了解を得て各エレベーターに鍵をかけている。入居前の見学時に鍵の説明を行い了解を得ている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	法人全体で避難訓練を年2回(7月/11～12月)実施している。グループホーム単独では、夜間想定のもと避難訓練を実施している。地域のボランティアの協力もいただいている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	法人の管理栄養士が食事の摂取量・栄養バランスなどを管理し提供している。水分摂取量も把握しており、摂取量の少ない入居者には水分補給に配慮している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	多目的室の表示を公民館とし、グループホームの共用空間として活用している。各ユニットごとに家庭的な雰囲気づくりの工夫があり、どのリビング空間からも金比羅池の眺望を楽しむことができる環境となっている。各ユニットの共用空間には入居者の書など作品が飾られ、心和む温かい雰囲気がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各階のユニットごとに空間利用の工夫があり、居室は共用空間の配置などによって広さが一律ではなく異なっている。各居室は広く仏壇などが持ち込まれ思い思いの過ごしやすい空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			